

糸燃後備

和紙糸でバッグ

「グリーンライト」展開

備後燃糸（広島県福山市）は、染織デザイナーの塩谷榮一氏とのコラボレーションで、エコ素材「和紙糸（水擦り製法）」を用いたバッグを商品化した。「グリーンライト」

のブランドで、百貨店や専門店向けなどに販売を始めたが、「手作りというところもあり、注文に生産が追いつかない」人気を持続させている。先日小売り向け催事で数十

点を展示したところ完売し、リピートの生産に追われていたという。

備後燃糸が開発した和紙糸は、軽くて通気性が良く、毛羽もなく、吸水性・

吸汗性や乾燥性・発散性にも優れ、地中で分解される

自然環境に優しい天然繊維。塩谷氏とコラボし、

和紙糸でデニム生地、帆布生地、和紙100%の生地を開発、バッグなどに商品化した。バッグのデザイン、染色は、塩谷氏が担当。数十点のサンプルを制作、2月のI Fのイベントで発表したところ、東西の有力百貨店をはじめ、専門店、通販会社などからかなりの引き合いが入った。納期管理を徹底させながら、市場の反応を確かめるため、一部で小売り催事を行ったところ、「素材やデザインの斬新さ、買いやすい価格設定、市場にない希少性などが評判を呼び、完売しただけでなく、リピートもかなり入った」（塩谷氏）という。

ただ、同バッグは手作りの要素が強く、量産が困難なため、現在は生産体制の充実に力を入れ、

新しい加工先も増やし、納期管理の徹底に注力している。「バッグとショール、タオルを商品化している。エコ素材ということもあり、反応は良く、注文もかなり入り出し

た。現在は注文に生産が追いつかない状態だが、徐々に解消されていくと考えている。やはり、顧客満足につながる開発が重要だということ再認識した」（同社）という。



大ヒットで生産も間に合わず